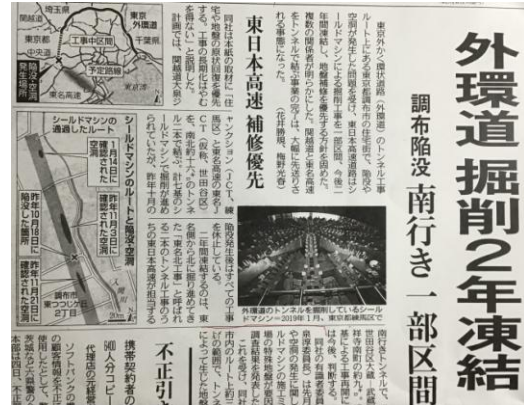


リニア原発震災

写真は東京新聞 3 月 5 日朝刊「外環道 掘削 2 年凍結」と大きな見出し記事。東京外かく環状道路（外環道）のトンネル工事ルート上にある東京都調布市の住宅街で、陥没や空洞が発生した問題を受け、東日本高速道路はシールドマシンによる掘削工事を一部区間、今後 2 年間凍結し、地盤補修を優先する方針を固めた。複数の関係者が明らかにした。関越道と東名高速をトンネルで結ぶ事業の完了は、大幅に先送りされる事態になった。



トンネル工事が長期間止まれば、リニア中央新幹線など大深度地下使用法に基づく地下トンネル工事の見直し論が強まる可能性もある、などと指摘する。

この記事を読んで、大深度地下使用法に基づいて大都市圏でも工事が進むリニア中央新幹線について、13 日レポートで紹介した石橋克彦・神戸大名誉教授の発言(朝日新聞 3 月 11 日朝刊)を思い起こしたので紹介する。

「リニア中央新幹線は東海道新幹線が地震で被災したときの代替とも言われますが、南海トラフ巨大地震が起これば被害を免れないでしょう。トンネルの内部が損傷したり、出口で斜面崩壊が生じて列車が埋没したりするおそれもあります。仮に被害が無くても全列車が緊急停止し、広域停電で運転再開は見込めませんから、全乗客が避難することになる。しかし、長大な山岳トンネルからの避難は困難を極めると思われます」

「リニアは電力を大量に使います。そのためにもし震源域の真上の浜岡原発を再稼働させておれば、再び原発事故が起こるおそれがある。放射性物質が広がってリニアの乗客を救出できなければ、『リニア原発震災』というべき惨事になるでしょう」

「計画にゴーサインを出した小委員会の報告書を読み、ひどさに気付きました。委員に地震の専門家はおらず、地震のことを全然考えていません。何本もの活断層をトンネルで横切り、ずれ動けば救いようがなくなる。そういう検討をまったくしていません」

「リニア計画は原子力とよく似ています。両方とも国策民営で、きちんと批判する専門家が少ない。社会はバラ色の話だけを信じ込まされて、沿線住民だけが苦勞している。『夢のエネルギー』として推進され、福島事故を起こした原発のように、破局的な結末もありうると心配しています」

「三大都市圏を 1 時間で結んで巨大都市集積圏をつくるというリニアは、成長信仰から脱却して『ゆとり・分散・小規模』などを大事にすべきポストコロナでは、時代錯誤だと思います。人口減少時代には需要も減るでしょう」

(2021 年 3 月 15 日)